

枚方淀川定例探鳥会 2023 年 7 月

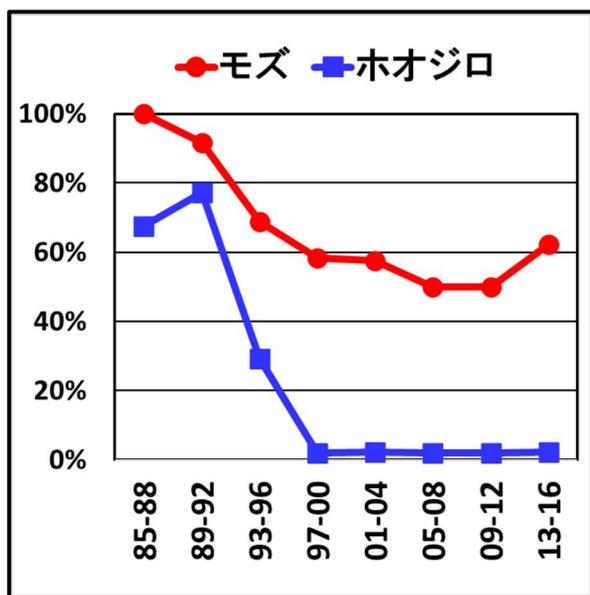
2023 年(令和 5 年)7 月 2 日(日) 9:00~12:00

日本野鳥の会大阪支部 担当 前田 初雄、甲田 正二、西脇 淳浩、香月 清宏、松井正夫
新名泰博、平 軍二(☎090-6901-1425) (Eメール g-hira@nifty.com)

1. 今月の鳥 ホオジロ

今月の鳥は淀川河川敷ではほぼ毎月観察できる留鳥で普通種のホオジロとしました。探鳥会資料の4ページ目の観察リストを見ていただくと、鳥名の次の欄に記載している**2012~2022 年の観察回数が 100 回**となっている。満 11 年の記録なので探鳥会回数は本来 132 回開催している筈であるが、コロナにより中止があり実際の開催は 106 回なので、ホオジロはほぼ毎回観察していることがわかる。

今回ホオジロを取り上げたのは、先月資料に書いた**「野鳥通りの樹木伐採計画」**は、やむなしの思いがあることによる。大阪公立大名誉教授高田直俊先生(元淀川河川環境委員)は、**「河川敷は林の小鳥ではなく、ホオジロなど草原の鳥の生育地にすべきである」**と言われたが、ホオジロがいなくなった万博公園の状況から、正論と思っている。



ホオジロなど草原の鳥が森の生長で少なくなることを
←①①万博公園定例探鳥会 で知った。

左図は 1985 年~2016 年の 32 年間、万博公園探鳥会で観察した草原の鳥、モズとホオジロの観察回数の変化を示している。

4 年毎に区切っているが、4 年間で 48 回探鳥会を開催するため、全探鳥会(48 回)で観察した場合は 100%、半分の 24 回観察できれば 50%で表示している。

万博公園は 1970 年開催の日本万国博覧会跡地に樹木を植えて開園された。開園当初は植えられた木が小さく、木の周りが草はら状態にあり、草原の鳥の繁殖地となっていた。その結果、左図のように、モズは 100%観察できたし、ホオジロも 100%ではないが万博公園内で繁殖する留鳥であった。その後樹木が生長

するとともに、草はらが無くなり草原の鳥は減少した。モズは冬鳥(11 月~4 月)として観察できるのみ、ホオジロは冬鳥となるも数年に 1 回観察できるのみの希少種となっている。

吹田市内では万博公園だけでなく千里ニュータウンなど開発が続き、ホオジロの住める環境は無くなっており、最近作成した**「レッドリストすいた 2021」**では、**ホオジロを絶滅危惧 A ランク種**とした。

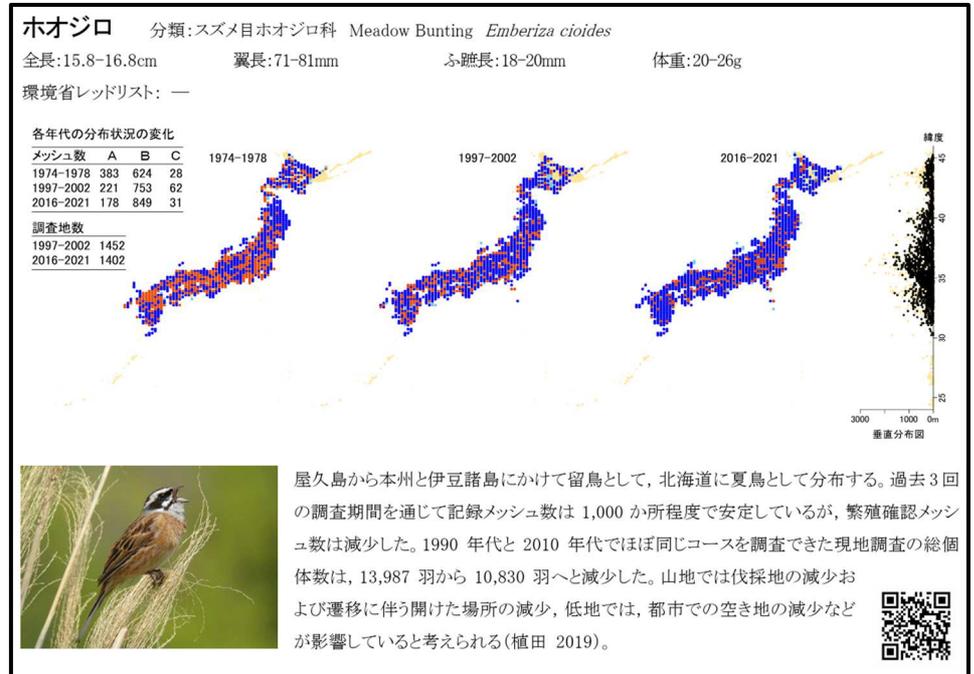
①②万博公園と同じように草原の鳥が減少している事例として、**大泉緑地**がある。40 数年前当時大阪市立大教授(現山階鳥類研究所名誉所長)山岸哲先生は、大泉緑地でモズを研究されており、研究結果が**「モズの嫁入り」**として大日本図書から発刊されている。大阪支部が大泉緑地探鳥会を始めた頃、山岸先生が個体識別用に付けた、足環付きモズを観察したことがある。百舌鳥の地名が多く、昔からモズが多かった堺市にある大泉緑地、最近の探鳥会結果を見ると、モズは冬鳥で繁殖しておらず、(ホオジロは冬鳥としても観察されておらず、)万博公園と同様であった。



②このようなことから、ホオジロが大阪府内で減っているのではないかと、

←大阪府鳥類目録 2016(日本野鳥の会大阪支部)

を確認したが、繁殖していないメッシュは、左図の通り大阪市内周辺のみとなっていた。大阪府で減っているかどうかの正解を知るには、もっと細かい地域別データが必要であり、大阪支部の各定例探鳥会データを集約・解析すればわかると思われるが、今回そこまでチェックしていない。



③日本全体の状況は、
全国鳥類繁殖分布調査→
(2016-2021年)
鳥類繁殖分布調査会

で示されている。図は

- A: 繁殖を確認した
- B: 繁殖の可能性がある

で示されているが、●Aが減り、●Bに移行していることから、全国的に減少傾向にある。

この結果について、「山地では伐採地の減少および遷移に伴う開けた場所の減少、低地では、都市での空き地の減少などが影響していると考えられる(植田 2019)」と説明されている。

2. 先月6月探鳥会

スタート時に、①4月探鳥会でのマナーについて、会員外の方からのメールがあったこと、②野鳥通りと呼ばれている河川敷内遊歩道の樹木が、30年ぶりに切ることになったことを、河川事務所からいわれたこと、の説明から入った。

河川敷に入ると、淀川本流は3日前からの豪雨の影響で水の流が早く、通常月より水位が1.5mほど高かった。く、前日までの水位は更にそれより1.5m以上高かったと思われる浸水跡(草木の汚れ)が見られるなど、豪雨影響を確認した。しかも、通常探鳥コースの遊歩道の一部が水没していて通れないことがわかり、コース変更を余儀なくされるなど、ここ数日の豪雨を実感しながらの探鳥となった。このこともあって、鳥の出方はいつもと異なり、ムクドリ・イワツバメは多かったものの、総じて鳥は少なく、トータル30種にとどまった。そんな中、ホオジロ・ウグイス・オオヨシキリのさえずりが響き、キジの雄たけび、そして姿を見ることができた。



ダイサギとコサギ(天野川魚道)

3. 8月は夏休みのため、次回は9月3日(日)9:00~12:00

午前9時ラポールひらかた集合
今月同様大阪支部ホームズよりお申込みください

4. 探鳥会観察チェックリスト

日本 鳥類 目録	鳥名	12.1~ 22.12 観察回	2023							日本 鳥類 目録	鳥名	12.1~ 22.12 観察回	2023							
			1/8	2/5	3/5	4/2	5/7	6/4	7/2				1/8	2/5	3/5	4/2	5/7	6/4	7/2	
5	キジ	43				3		2		185	ホトギス	2								
21	ツクシガモ	1								187	ツツドリ	2								
26	オカヨシガモ	44	○	33	42		雨			188	カッコウ	1					雨			
27	ヨシガモ	13			2	10	天			192	アマツバメ	2					天			
28	ヒドリガモ	42	○	2			中			194	タゲリ	1					中			
29	アメリカヒドリ	5					止			195	ケリ	27					止			
30	マガモ	54	○			1				202	イカルチドリ	9								
32	カルガモ	86	○			12		6		203	コチドリ	29				1				
34	ハシビロガモ	7		4	4					204	シロチドリ	4								
35	オナガガモ	8								219	タシギ	4								
36	シマアジ	1								227	チュウシャクシギ	2								
37	トモエガモ	1								235	アオアシシギ	1								
38	コガモ	56	○	6	10	10				239	クサシギ	3								
42	ホシハジロ	36	○	31	34	3				241	キアシシギ	1								
43	アカハジロ	4								244	イソシギ	74	○	2	3	1				
46	キンクロハジロ	39	○	42	76					251	トウネン	1								
47	スズガモ	6								266	ハマシギ	1								
59	カワアイサ	44	○	16	8					286	ユリカモメ	21								
60	ウミアイサ	3								293	ウミネコ	3								
62	カイツブリ	41		4	1	1				294	カモメ	2								
64	カンムリカイツブリ	53	○	2	9	2				299	セグロカモメ	19								
66	ハジロカイツブリ	3								307	コアジサシ	9								
74	キジバト	103	○	4	4	4		2		339	ミサゴ	61	○	1						
83	シロエリオオハム	1								340	ハチクマ	2								
127	カワウ	102	○	8	9	7		6		342	トビ	83		1	4	3		1		
139	ゴイサギ	9						1		349	チュウヒ	1								
141	ササゴイ	15								355	ハイタカ	29		1	1	2				
143	アマサギ	2								356	オオタカ	20		1	1	1		1		
144	アオサギ	104	○	3	15	2		1		357	サシバ	1								
146	ダイサギ	100		1	5	5		6		358	ノスリ	32	○		1					
148	コサギ	91	○	2	2	5		1		366	オオコノハズク	1								
153	ヘラサギ	1								383	カワセミ	88	○	2	1	2			2	
166	クイナ	11		1						388	アリスイ	9								
170	ヒクイナ	6			1					390	コゲラ	85	○	1	7	2			5	
174	バン	21		1	1					393	アカゲラ	6								
175	オオバン	43	○	76	86	53				401	チョウゲンボウ	48		2		1				

